

<2019年度 ハローオリンピック事業>  
**オリンピック教室**

**実施報告書**

**埼玉県 狭山市立西中学校**





## 「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間 (50分)



2時限目  
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

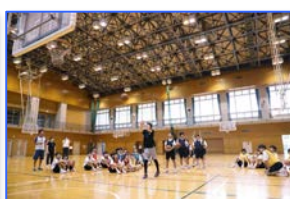
まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

# 実施内容

■期 日 : 2019年7月8日 (月)

■ク ラ ス : 2年4組 (38名)、2年5組 (37名)

■オリンピアン : 大山 加奈 先生 (バレーボール) 【出場オリンピック/アテネ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・オリンピックバリュー (エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト) について一緒に勉強していきたいと授業の目的を確認。バレーボールは思いやりの気持ちをつないでいくスポーツなので、オリンピックバリューのどれに当てはまるか考え、思いやりを持って楽しく素敵に時間していきたいと話す。
- ・準備体操としてバレーボールを使用し、素早く反応するトレーニングとパス練習等を行った。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・班毎に分かれ、バレーボールのアンダーハンドパスの円陣パス回しを行った。班毎になるべく長く続くように作戦タイムを設けながら、2回実施。
- ・作戦の発表ではオリンピックバリューにつなげ「エクセレンス=積極的に取りに行く」、「フレンドシップ=仲間が取りやすいようにトスを上げる」、「リスペクト=良いプレーを褒める」等の意見が挙がった。

## 4. まとめ



- ・楽しみながら笑顔で全力で頑張ってくれたこと、仲間のミスをかバーしようと思う気持ちや、丁寧にパスを出す姿、ありがとうと感謝を言葉にできることが素晴らしかったと生徒を称えた。
- ・オリンピックバリューは普段からも実践できていると思うが、座学の時間はより詳しく内容を説明していくと伝え、運動の時間を称えて授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・子供時代からアテネ大会までの道のりを記録した映像を見せ、自己紹介。
- ・自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、一生懸命頑張る、諦めない、全力を尽くす」、「フレンドシップ＝友情」、「リスペクト＝敬意/尊重」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



個人ワーク発問：先生の話の中で、どのエピソードがどのオリンピックバリューに当てはまるか考えてみよう。運動の時間に頑張ったことや工夫したことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

グループワーク発問：このクラスをより良いクラスにするために大切にしたいことを書きだしてみよう。

発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）

「夢や目標に向かって努力する」「何事も最後まで諦めずに全力で取り組む」(エクセレンス)

「仲間が頑張っている時に応援をする」「友達が失敗したときに励ます」(フレンドシップ)

「全ての行動で相手のことを考える」「人を思いやり仲間を大切にすることで自分の成長にもつながる」(リスペクト)

4. まとめ



・オリンピックバリューはオリンピック人だけのものではなく、皆の身近に存在する。オリンピックは、オリンピックバリューの大切さを伝える大会であり、メダルの獲得だけが目的ではないと話す。

・東京2020大会では、メダルの有無よりも、選手達が何を大切にしているかに注目して見てほしい。実力を出し切れるように応援してあげてほしいと伝え、授業終了。

# 実 施 内 容

■期 日 : 2019年7月9日 (火)

■ク ラ ス : 2年1組 (37名)

■オリンピアン : 野村 智宏 先生 (陸上競技) 【出場オリンピック/アトランタ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



## 2. 準備体操



- ・自己紹介の後、オリンピックについて学んでほしいと授業の目的を確認し、東京2020大会へ向けて、オリンピックバリュー (エクセレンス・フレンドシップ・リスペクト) の意味を知ることによってオリンピックの見え方も変わらと思うので、この機会に体験してほしいと伝えた。
- ・準備体操として、ストレッチや、野村先生の真似をする運動など、複雑な動きを頭で考えて体が実践できるようにする運動を行った。

## 3. 主運動



- ・班対抗でボール取りゲーム (全3回) を実施。3班が三角形になるように分かれ、各陣地と中央に置かれた5つのテニスボールを取り合ゲーム。1人1つずつしか持ち帰れず、1つの班が3つ揃った時点で終了とする。
- ・1回実施するごとに「どうしたら3つのボールが揃えることができるのか考えよう」と、作戦タイムを設ける。
- ・最後に全員で、先生がボールを離している時だけ動ける、手つなぎたるまさんが転んだを実施。

## 4. まとめ



- ・失敗することも成功することもあるが、お互いが理解しながら取り組みれば失敗も成功につながることを、協力することが大切であると話し、これがオリンピックバリューにつながっていると伝える。お互いに思いやる気持ちや、勝負に対して皆が同じ方向を向くことも大切であると伝え、この後座学で学習するとして、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・アトランタ大会の映像を見せながら走高跳のルールについて説明し、世界の有名選手や世界記録についても紹介。
- ・自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、ベストを尽くす、一生懸命頑張る、全力で取り組む」、「フレンドシップ＝友情、仲間、チームワーク」、「リスペクト＝敬意/尊重、お互いを理解する、感謝」と説明。

3. グループワーク



- 発問： 宿泊学習教室を振り返り、何ができたか、どのようなことをしたか、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表： 各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）
- 「カレー作りを全力で取り組めた」「オリエンテーリングで雨の中一生懸命ゴールを目指して歩いた」(エクセレンス)
  - 「オリエンテーリングで班の皆と協力してゴールできた」「皆で教え合い協力してカレーを作った」(フレンドシップ)
  - 「宿泊施設の人に感謝を伝えられた」「ホールアースの時に先導してくれた人に感謝している」(リスペクト)

4. まとめ



- ・日常生活の中にも、オリンピックバリューを実践できる場面がたくさんある。夢を実現するためには周りの人の協力が必要不可欠であり、自分勝手に物事を進めたり、ルールを破って成功しても、誰にも応援してもらえない。皆の夢を実現するためにも、オリンピックバリューを意識して生活してほしい。最後に、東京2020大会にはどのような形でも良いので参加し、オリンピックを盛り上げてほしいと伝え、授業終了。

# 実施内容

■期 日 : 2019年7月9日 (火)

■ク ラ ス : 2年2組 (38名)、2年3組 (37名)

■オリンピアン : 三好 智弘 先生 (水泳/競泳) 【出場オリンピック/バルセロナ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



## 2. 準備体操



・自己紹介の後、オリンピックとは何か、バルセロナ大会に出場した自身の体験を皆に伝えながら楽しく学んでいきたいと伝える。オリンピックシンボルについて、5つの輪は5大陸 (アジア、アメリカ、アフリカ、オセアニア、ヨーロッパ) を表していること、輪がつながっているのは、世界平和への願いであると伝える。また6色の意味についても問い掛け、オリンピックを始めた当時の国の国旗をこの6色で描くことができたことと説明。

・準備体操として、ストレッチ、ランニング、ピブス投げを実施。

## 3. 主運動



・6班対抗で、風船リフティングゲームを実施。(3回) 班毎に円になり手をつなく。使用する風船の大きさを班で選び、手以外でリフティングして、時計回りに渡していく。落とさずにリフティングした回数を競う。

・どうしたら長く続けることができるか、作戦タイムを設けながら実施。

## 4. まとめ



・オリンピアンは、どうしたら人より良い結果を出すことができるかを考え工夫している。皆もこの1時間の運動を通して、少しでも上達しようとして人の意見を聞こうとしたからこそ、良い結果を出すことができたこと話し、皆が取り組んだことはオリンピックの価値であるオリンピックバリュー (エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト) につながっている。次の座学の授業ではこの運動の時間から何を学ぶことができたのかを考えていくと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・バルセロナ大会に出場するまでの経験を基にオリンピックバリューについて考えていきたいと授業の目的を確認。
- ・自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、優秀、長所、+1の法則」、「リスペクト＝敬意／尊重、受け入れる」「フレンドシップ＝友情、チームワーク」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



運動の時間を振り返り、仲間の良かったところを挙げてみようと伝え、個人ワーク及びグループワークを実施。

発問：①運動の時間を振り返り、1番頑張っていた人・リスペクトできる人と理由を挙げてみよう。

②チームの為にかけた言葉を挙げてみよう（フレンドシップ）

発表：指名された生徒が起立して発表。（抜粋、順不同）

①「運動が苦手な人をカバーしてくれた」「班の皆を和やかにする面白い発言をしてくれた」「ピブス投げで遠くに飛ばしていた」等

②「頑張れ」「ドンマイ」等

4. まとめ



・人の良いところを見つけた時は、自分からそれを発信することを今日から実践してほしい。オリンピックは、さまざまな場面でオリンピックバリューを発揮している。オリンピックバリューは日常生活に存在しているので、皆も日頃から意識して生活してほしい。そうすることで今の自分から更に成長し、日々を楽しく過ごすことができる。オリンピックバリューを皆の成長につなげてほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真  
2年1組



2年2組



■ 集合写真  
2年3組



2年4組



■ 集合写真

2年5組



■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



2年5組



■ 修了証贈呈

